

既に展示室でご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、現在木村定三コレクション室（展示室8）では、新しい小冊子を配布しています。かわいらしい表紙が目につくこの冊子の名前は「拝啓、木村定三さま」。その名の通り、コレクターの木村定三氏をご紹介します内容です。

当館では木村定三コレクションの受入れ以来、様々な調査研究や展示を行ってきましたが、来館者の方々から「木村さんはどういう方だったのですか？」という質問を頂くことがしばしばありました。今年2013年は木村氏の生誕100年にあたりますので、それを記念して木村定三氏その人に焦点を当てた印刷物の発行を企画したわけです。内容については実際にお手にとって頂くこととして、ここでは編集中の裏話をいくつかご紹介しようと思います。

この冊子は当初から、幅広い年代の読者を想定して、小中学生でも楽しみながら読めるものにしたいと考えていました。そのため、堅苦しくない雰囲気を出すために、当館の他の印刷物では「木村定三氏」と呼ぶところを、あえて親しみをこめて文中では「定三さん」と呼んでいます。さらに様々なエピソードにはイラストを添えて、楽しみながら読み進められるようにしました。

このイラスト、どなたに頼もうかと思案したのですが、若い作家を支援した木村氏にならって、若いアーティストにお願いすることにしました。イラストを使った作品も発表している、板谷奈津さんです。彼女は小さいお子さんを持つお母さんでもあるので、子どもたちの共感を得られるのでは、という予感がありました。結果としてこちらの期待を上回る内容に仕上げてくれたのではないかと担当は思っていますが、皆さんの感想はいかがでしょう。板谷さんの娘さんも登場していますので、是非実物をご覧になってみてください。



ちなみに彼女の本業の方の作品では、イラストの温かいテイストはそのままに、もうちょっとハードな感じ（意味深）になっているので、そのギャップもまた興味深いです。一番の驚きだったのは、イラストだけではなく定三さんのアプリケも作ってくださったこと。その出来の良さに、迷わず表紙に使わせていただきました。

(TI)

